

# 地域の安全とともに、自然環境へのまなざしを

曾木の滝分水路

## 継続的なモニタリングの実施

### 【川内川激特事業環境影響検討委員会】

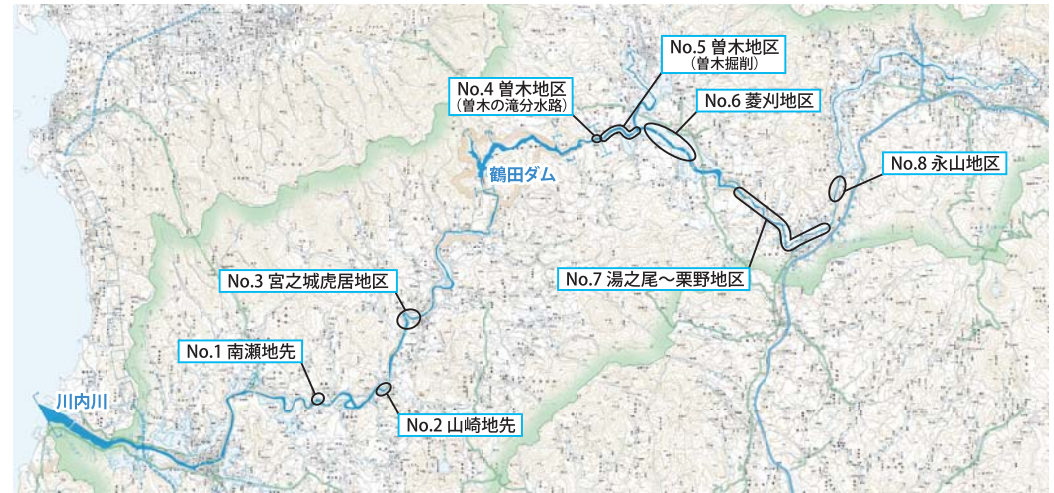
激特事業は短期間で大規模な川の形状などの改変を行うため、学識者による「川内川激特事業環境影響検討委員会」を設置し、特に川の改変が大きい8地区において、環境への配慮事項等について確認・助言を頂き、工事を実施しました。

### ■ 委員会のこれまでの経緯等について

年度	委員会の進展	工事	モニタリング・環境保全措置
平成19年度	<b>川内川激特事業環境影響検討委員会</b> の設置 <b>第1回委員会</b> 平成20年1月22日 ①検討地点の設定 No.1～No.8 ②調査区分の設定 <b>工事前・工事中・工事後</b> ③平成19年夏季調査結果の報告	一部着手	地区ごとの工事の進捗に応じてモニタリングを実施
平成20年度	<b>現地視察会</b> 平成20年7月23日 <b>第2回委員会</b> 平成20年8月29日 ①環境保全目標及び保全措置の設定 <b>指標種</b> を選定 ②モニタリング調査計画の設定(年次、季節等)	一部地区を除き着手 一部地区完了 (No.6菱刈)	工事前
平成21年度	<b>第3回委員会</b> 平成22年2月24日 ①工事進捗、環境保全措置の実施状況の報告 ②モニタリング調査結果の報告	着手地区の施工進展	工事中
平成22年度	<b>第4回委員会</b> 平成22年11月29日 ①工事進捗、環境保全措置の実施状況、モニタリング進捗の報告 ②モニタリング結果の評価方法の協議 ③今後のモニタリング・委員会運営の協議	着手最終 (No.2山崎地先) 工事完了	工事後
平成23年度	<b>第5回委員会</b> 平成24年2月23日 ①工事後のモニタリング完了に伴う調査結果報告 ②環境保全措置の評価 ③今後の予定		環境保全措置
以降(予定)		アダプティブ・マネジメント※	河川水辺の国勢調査に移行

※アダプティブ・マネジメントとは、当初の予測通りにならない事態が起こることをあらかじめ管理システムに取り込み、モニタリングを行いながらその結果への対応を柔軟に修正する手法です。

### ■ モニタリング調査の経緯(モニタリング調査地区)



### ■ 曾木地区(分水路)植物の移植

平成20年10月に地区内に移植用の池及び湿地を造成し移植を実施。



ミミカキグサ



ホザキノミミカキグサ



ゴマシオホククサ



コマツカサスキ



移植池の造成及び保全対象植物の配置  
平成20年10月撮影



移植池の造成移植実施2年後  
平成22年12月撮影

### ■ 植栽の実施



樹木伐採跡地には潜在自然植生を踏まえた植栽の実施 平成23年11月撮影



植栽実施の説明標識

### 環境保全措置項目

地区・地先名	環境保全措置・配慮事項
No.1 南瀬地先	本川と水路との落差の解消
No.2 山崎地先	瀬・淵、ワンドの保全、植生の移植、貴重植物への配慮、鳥類の生息環境の保全、カヤネズミへの配慮
No.3 宮之城虎居地区	瀬の保全、魚類の生息環境の配慮、植生の移植、ほ乳類の移動路の確保、河岸植生の保全など
No.4 曾木地区(曾木の滝分水路)	カメ類への配慮、昆虫類の生息環境の確保、貴重植物への配慮、鳥類の生息環境の確保、カヤネズミへの配慮
No.5 曾木地区(曾木掘削)	植生の移植、貴重植物への配慮、鳥類の生息環境、繁殖期の配慮
No.6 菱刈地区	水際植生の保全、貴重植物への配慮、鳥類の生息環境、繁殖期の配慮
No.7 湯之尾～栗野地区	貴重植物への配慮、カヤネズミへの配慮、鳥類の繁殖環境の保全、草地の保全
No.8 永山地区	小動物の生息環境の配慮、カヤネズミの繁殖期への配慮